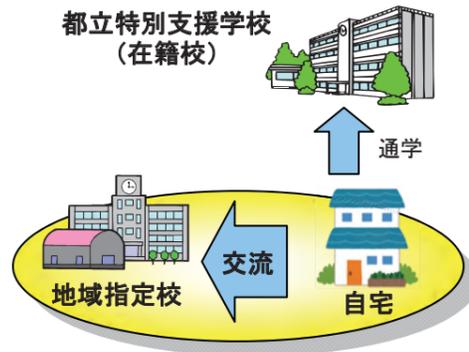


副籍制度とは

都立特別支援学校の小・中学部に在籍する児童・生徒が、居住する地域の区市町村立小・中学校に副次的な籍をもち、直接的な交流や間接的な交流を通じて、居住する地域とのつながりの維持・継続を図る制度です。

- ※ 「副次的な籍」を『副籍』と言います。
- ※ 都立特別支援学校の児童・生徒が「副籍」を置く小・中学校のことを『地域指定校』と言います。

- 交流には、学校・学級便りや手紙等の交換を主とする「間接的な交流」と、都立特別支援学校の児童・生徒が地域指定校の授業や行事に参加する「直接的な交流」とがあります。



- ◆ 都立特別支援学校で学ぶ児童・生徒は、スクールバス等を利用して自宅から離れた学校に通うため、居住地域における同年代の子供同士の交流の機会が少なくなりがちです。

副籍制度のこれまでの実施状況

- ◆ 現在の副籍制度は、保護者の希望に応じて利用できる制度になっています。

【副籍制度の利用者の割合】

平成 19 年度	平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度
29.4%	39.9%	38.0%	37.7%	36.8%	37.5%



- 35%~40%の児童・生徒が、副籍制度を利用して地域指定校との交流活動を行っています。
- 副籍制度を利用している児童・生徒のうち、約 60%が「直接的な交流」を行っています。

- ◆ 都教育委員会では、副籍制度のこれまでの成果や課題を把握するため、都立特別支援学校小・中学部の全保護者と全教員、及び地域指定校の教員（一部地域）にアンケート調査を実施しました。（平成 24 年 9 月）



特別支援学校の保護者

- 72%の保護者が、「直接的な交流」の内容に満足しています。
 - ・ 近所でよく声を掛けてもらえるようになった。公園で会ったときには、遊びの仲間に入れてくれた。地域で過ごしていく中で、大事な一歩が踏み出せたと思う。
 - ・ 障害のある子供との接し方が自然になってきている。以前は、じろじろ見られたりしたが、今は声を掛けてくれる子供が増えて嬉しい。

特別支援学校の教員

- 79%の教員が、副籍制度は共生社会の実現に向けて意義があると考えています。
 - ・ 障害についての「出前授業」を交流の前に行くと、地域指定校の先生や子供の障害に対する理解がぐっと深まると感じた。
 - ・ お互いの教員が忙しい中でも、思いやりをもってやりとりをすることができた。気持ちがつながっていると感じられるときは、副籍制度の意義を感じる。



地域指定校の教員

- 70%の教員が、小・中学校の主体的な取組が必要であると考えています。
 - ・ 特別支援学校の子供が、交流学級の子供たちとあって嬉しさを表現してくれることで、学級の子供たちも迎える良さを感じることができた。
 - ・ 学校外で顔を合わせたときに、お互いに挨拶を交わすようになった。相互理解のため、副籍制度は意義があると思う。



これからの副籍制度（「副籍ガイドブック」より）

- 副籍制度は、「共生社会」の実現を目指します。
- 副籍制度は、「共生社会」の担い手となる人材の育成を目指します。
- 都立特別支援学校小・中学部の全ての児童・生徒が「副籍」をもつ制度とします。



【共生社会（地域）のイメージ】

【街の中では】

- ・ 障害のある人が気軽に外出でき、人々が気軽に挨拶し合い、声を掛け合い、自然に手を差し伸べる様子が見られる。

【職場では】

- ・ 障害のある人と障害のない人が協力し、ともに生き生きと働いている。

【学校では】

- ・ 障害のある子供と障害のない子供がともに学ぶ場面がある。

【交流及び共同学習の推進】

【公園では】

- ・ 障害のある子供と障害のない子供と一緒に遊んでいる。

【家庭（家族）同士では】

- ・ 障害のある子供を育てる家庭と近隣家庭との日常的な交流があり、必要なときに支援を求めることができる。
- ・ 大規模災害の発生時には、お互いに助け合える。

【公共交通機関では】

- ・ 障害のある人やお年寄り等に自然と席を譲る場面が見られる。

【地域の行事では】

- ・ 障害のある子供も、地域の一員として参加でき、障害のない人々とともに楽しむことができる。

※ 都教育委員会では、私たちが目指す将来の地域社会の姿として、共生社会の理念をより具体化した「共生地域」という理念を提案しています。

交流活動の更なる充実に向けて

未来に向けて、子供同士のふれあいを大切に交流活動を創造しましょう。

交流活動の「創造のポイント」

- ◆ 子供一人一人の「心が育つ」交流
- ◆ 無理なく「続けることができる」交流
- ◆ お互いの「顔が見える」交流
- ◆ 将来への「希望がもてる」交流



地域指定校
(学級担任)



都立特別支援学校
(学級担任)

- 交流活動の充実に向けては、都立特別支援学校の教員と地域指定校の教員との緊密な連携が不可欠です。お互いにアイデアを持ち寄り、双方の実情に応じた特色のある交流活動を活性化させることが期待されています。

※ 障害種別の交流事例を「副籍ガイドブック」に掲載しています。御参照ください。